
IR 定期学生調査の実施開始

栗島一博 (IR ワーキンググループ)

【はじめに】高等教育機関において、機関に関する情報の調査及び分析を実施する機能や部門は IR (Institutional Research) と呼ばれる。本学の IR の活動として、学生の学びに関連する実態の調査を 2023 年度より開始した。本稿では、この調査結果の概要を報告する。

【方法】対象は、2023 年 4 月時点で在学している 1-4 年次の全学部生 324 名とした。新学期オリエンテーション時に本調査の概要について説明し、オンラインの質問票調査を行った。回答期間は 2023 年 4 月 5-10 日とし、調査は無記名とした。調査内容は、進路、生活、アルバイト、経済状況、心の健康・悩み、大学の満足度、大学への要望とした。

【結果】オンライン質問票の回収数は 310 人であった(回収率 95.7%)。希望する卒業後の進路(複数回答)については、1-4 年次別にそれぞれ、看護師(67.5%, 77.1%, 82.2%, 85.1%)、保健師(43.8%, 47.0%, 41.1%, 35.1%)、助産師(32.5%, 33.7%, 23.3%, 14.9%)、大学院へ進学(3.8%, 2.4%, 8.2%, 8.1%)であり、年次が高くなるほど助産師・保健師の割合が減り、看護師の割合・大学院へ進学の割合が高くなる傾向があった。その他の進路として養護教諭、看護教員、他分野の大学院へ進学などの回答があった。

居住形態については、全体の 77.5%が実家であり、一人暮らしは 18.9%であった。通学手段(複数回答)は、1 年次はバス(51.2%)、2-4 年次は自動車(43.4%, 50.7%, 58.1%)が最も多かった。実習中の睡眠時間(2-4 年次のみ調査)は、全体で 4 時間以上 5 時間未満(39.3%)が最も多く、年次が高くなるほど睡眠時間が短くなる傾向があった。

アルバイト(2~4 年次のみ調査)については、全体で 87.0%の学生が昨年度アルバイトをしており、そのうち通年でアルバイトをしている学生は 56.5%であった。奨学金などの経済的な支援制度については、全体の 57.4%が利用しており、その受給額は 4~6 万円(35.0%)が最も多かった。今年度、新規の申請をする予定がある・あるいは申請中は全体の 15.2%であった。学生生活を送るための経済的なゆとりがあると思うかについては、全体で肯定的な回答が 60.0%、否定的な回答が 40.0%であった。

心の健康・悩みについては、勉学に支障がない程度に健康だと思うかについて、全体の 93.8%が肯定的な回答、6.2%が否定的な回答であった。学生生活の悩みや不安については、全体の 44.5%があると回答した。悩みや不安があると回答した学生における、悩みや不安の種類(複数回答)で年次別に割合が高かったものは、1 年次は学習面(35.0%)、交友関係(26.2%)、経済面(13.8%)、2 年次は学習面(42.2%)、就職・進路(31.3%)、経済面(21.7%)、3 年次は学習面(41.1%)、就職・進路(38.4%)、交友関係(13.7%)、4 年次は就職・進路(41.9%)、学習面(39.2%)、経済面(18.9%)であった。精神的な健康については、年次が高くなるほどうつ・不安傾向の評価点が高い学生が増える傾向があった。

授業・実習・学修環境の満足度については(2-4 年次のみ調査)、全 7 項目の全てにおいて、肯定的な回答の割合が 86.8%-93.0%と高かった。

【考察】他の全国調査と比較したときの居住形態や奨学金の受給割合、年次別の悩みの種類など、学びに関連する実態についての本学の特徴が見られた。コロナ禍によって大学生の学生生活や大学の運営が大きく変化したことを考慮し、アフターコロナを意識して、学修者の目線で指導や支援を調整する必要がある。本調査は年次比較のため今後も継続し、IR としての情報提供を進めていきたい。
